

浄土真宗東本願寺派野中山正山寺

# ほつ寺通信

第20号

令和元年10月1日  
元発行者正  
<責任者> 藤野慶正  
(住職)

※皆さんでご覧ください。

## 報恩講

十一月十日（日曜）

午後一時から三時まで

例年通り、浄土真宗の門徒にとつてとても大切な報恩講が厳修されます。宗祖親鸞聖人を偲び、一緒に正信偈をお読みしましょう。また、ご好評頂いております浅草・緑泉寺の青江覚明先生のご法話もあります。仏縁を深めるためにも是非お誘い合わせの上、ご参詣ください。

### ■町田駅バスセンター発

小山田行

（行き） 十二時十七分

（帰り） 三時 十分

### ■淵野辺駅北口前発

小山田はなみずきの丘行

（行き） 十二時二十分

（帰り） 三時十八分

※小山田停留所でお降り下さい。

## 住職の仏々

皆さんこんにちは。この寺報を書き終えるのは、発行の一ヶ月前頃でしょうか。（校正、印刷、発送作業など諸般の事情により）そのため、少し前の話題に触れたり、先を予測して書くことがあることをお許しください。例年、10月の発行は報恩講の一ヶ月前を基準に、10日としていましたが、今回は、1日に。これは皆さんもお察しかと思います。郵送料の消費税8%の滑り込みです。（笑）

国の将来に関わる消費税ですから、10%も致し方ないと思いが、寺報は皆様の維持費から成り立っております。少しでも経費削減という訳です。国の予算も、国民の将来を考えれば、もっと削減して然るべきかと思いますが、思うように行かないものですね。

さて、この前（8月）の盂蘭盆会より、布施のお礼に「お餅」をお配りするようになりました。お饅頭を期待していた方には申し訳ありませんが、当面「お餅」にさせていただきます。ご了承ください。（概ね良好のご意見を頂いています）

## 登高座



登高座一式。中央に礼盤（導師が礼拝や表白を読む時のための高座）、前に経机、左に香炉、右に磬（けい）を置きます。

登高座は特別な法要時に用いる仏具です。正山寺では、盂蘭盆会や報恩講の時に用います。ご参加された方は見覚えがあるかと思いますが、住職が何やら立ったりしやがんだりして、何やらモ二ヨモ二ヨ申しているあれです。（笑）

一体何をしているのかと言うと、ご尊前（阿弥陀仏）に最善の

礼を尽くしているのです。具体的には、高座に上り、まず焼香を行います。次に、三礼と言つて、前回の寺報に載せましたが「三宝」に帰依を表明しつつ、立位・瞻仰（せんごう※敬い仰ぎ見る）と蹲踞（そんきよ※体を丸くしてしゃがむ）を繰り返す独特の礼作法を行い、唄文（ばいもん※次頁参照）を唱えます。次に、表白（ひょうびやく※この法会の趣旨）を読み上げます。そして、高座を下ります。

今回の記事で登高座に少しでも興味を持つて頂けたら幸いです。また、一連の作法は、独特なもので、住職が数日前から練習しております。なるべく何を言っているのか分かるように、マイクを設置していますので、是非、特別な法要（報恩講など）にご参加頂き、その日常の喧騒から離れた独特な空間を共有されてください。そして、阿弥陀仏の威光を感じつつ、それをお伝えいただいた七高僧（インド・中国・日本の7人の高僧方）と宗祖親鸞聖人に一緒に報恩感謝させて頂きましょう。

# 唄文

にょらいみょうしきしん  
**如来妙色身**  
如来の妙なる  
身体は

せけんむよとう  
**世間無与等**  
この世に同等の  
ものがありません

いっさいほうじょうじゅう  
**一切法常住**  
全ての教えが常に  
存在しています

ぜこがきえ  
**是故我皈依**  
それ故に私は皈依  
いたします

登高座作法の中で唱える唄（うた）。ご本尊を前にして、丁寧な礼拝をした上で、その阿弥陀仏（如来）を称える唄です。漢文ですのでサラリと聞き流しがちですが、その深い意味を感じ取って頂けますでしょうか。この世に比較するものがないほどに優れた阿弥陀さま、その法（教え）が常に私達に注がれていることを感じ、改めて皈依（信じる）していくことをお誓いしているのです。

仏教の作法は長い年月をかけて定められてきたものが数多くあります。省略することは簡単ですが、それを伝承していくためにも出来る限り正式に続けて行きたいと思っております。

# 書籍紹介

『齋藤孝の仏教入門』（文庫本）



齋藤孝著（日本経済新聞出版社）

著者は、明治大学文学部の教授をされる傍ら、テレビのバラエティ番組への出演もされていることからご存じの方も多いのではないのでしょうか。いつもにこやかな笑顔で分かりやすい語り口にファンの方も多いと聞きます。その落ち着いた雰囲気から何かを悟られているようにも感じていました。この本を読んでみて、それが仏教の教えから来ていることを知りました。帯に、仏教とは最強のメンタルマネジメント術である！とある通り、仏教を日々の生活に活かすコツが平易に書かれています。浄土真宗の教えというより、ブツダの言葉を引用し、その教えが今の人達にも色褪せない珠玉の言葉であることが伝わってきます。

# 坊守のコラム

少し前の話となりますが、息子は小学生になり最初の夏休み。この間に、苦手としていた縄跳びを克服したいと考えました。お友達

は、前跳び、後ろ跳び、交差跳び、二重跳びと、レベルアップ！息子は、ドスン、と一度跳べるか跳べないか。苦手だから余計やらないという具合でした。それにしても、今年の夏は暑すぎました。外遊びをだいが控えていて、夏休み最後の日。同じクラスのお友達が縄跳びを持って遊びに来ました。思いの他、その子の縄跳びの縄が長かった、というより息子の縄跳びが短かったことと、縄が絡みやすいということに気づきました。すぐに縄跳びを買い直し、再チャレンジです。手の回し方やジャンプの練習の成果もあって、まだぎこちないながらも時々20回以上跳べるようになりました。上手く出来た時の喜びで、失敗しても再度やってみようという向上心も生まれたようです。自分自身、出来なかつたことにチャレンジしたり努力す

ることが減ってきていることもあり、子供を通して努力の大切さを学んだ出来事でした。

# あとがき

この記事が書き終わる9月上旬、34度を記録：残暑というより酷暑と言ったほうが良さそうです。それにしても、今夏は暑かったり雨が多かったりと印象的な夏でした。息子も外遊びが余り出来ず、不満そうでした。この寺報が皆様に届く頃は過ぎしやすくなっていますでしょうか。いずれにしても、くれぐれもお体を大切にお過ごしください。報恩講でお待ちしております。 合掌

寺報「ほっ寺通信」 第20号

## 浄土真宗東本願寺派 正山寺

住職：藤野慶正（発行責任者）  
住所：〒194-0201 町田市上山1504  
電話：042-797-1446  
FAX：042-797-9233  
URL：<http://shousan.net>  
メール：[info@shousan.net](mailto:info@shousan.net)